

## 介 護 計 画

現代社会において少子高齢化はますます進み認知症の高齢者が2025年には5人に1人にあたる700万人に増えるの見込まれています。県内の高齢化のスピードも急速に進んでおり、認知症を有する高齢者は、現在約26万人いるとされ、今後これまで以上のペースで増加すると見込まれて、2025年には約40万人に達し、県総人口の約5.7%になるとの推計です。この様な状況から認知症対策は、喫緊の課題であり、私達介護事業所には、こうした方々に対する役割や期待が高まるのではないかと考えられます。

住み慣れた地域で長く暮らせる様に支援すべき努力と、その方々へ寄り添う家族や地域との関わり・在り方を検討し、限られた資源の提供に法人として、70床の入所ベットに短期入所10床中6床を入所分に転換することで更に、働く職員の一員として、より一層の組織運営力強化とともに、多様なサービス展開に努力し、介護施設の在り方を、再確認してサービスの提供をすべく、今年度も下記の目標を掲げます。

### 1) 利用者様への接し方

#### < 地域密着型通所介護サービス >

小規模ながら職員の確保は万全である介護現場として、利用者様個々の多様なADL・ニーズの状況に対し即応した支援・ケアの実践をします。また他事業所、他部署との連携も怠ることなく環境整備に努めます。

#### < 2階・3階入所者様 >

新規に入所される方の介護度が3以上となっている事、又継続で入所されている入所者様の介護度も高くなっている現状ではありますが、多様なADL・ニーズにも状況に即応した支援・ケアを心掛け、落ち着いた暖かい雰囲気を整えることで、気力・体力等の低下を常にチェックし、メリハリのある生活を送れるように配慮していきます。

認知症状の重度化に伴い、精神面と事故防止に努め、また、入所者様間でのトラブルを未然に防ぎ、落ち着いた雰囲気で生活して頂ける様に配慮するとともに、関係各部署との連携に努めます。

## 2) 介護職員の心掛け

- ① ケアプランを基に介護・看護部署との連携を密に徹底した処遇の実践と個別ケアをより充実させ高めて行く。
- ② 利用者様の立場に立ち、気持ちを汲み取ったケアの提供。
- ③ 利用者様、そのご家族の皆様に納得・満足をして頂けるケアの提供。
- ④ 介護職員間・各部署間の専門的な連携と建設的な意見調書を基にしたケアの提供。
- ⑤ 職員間の切磋琢磨・職員一人一人の自己研磨による介護技術の向上を目指し実際の現場にて実践を展開する。
- ⑥ 介護職員である以前に社会人としての常識・モラルをわきまえ、プロとして恥ずかしくない職務を心掛ける。